



GOOD NEWS とぎのこえ

War Cry

6月号

福音版
2022
June
No.2836

二〇二二年 六月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 除く七月 広報版・奇数月十五日発行

何歳まで

生きてますか？

西村 和江



最近、ニュースの街頭インタビューで、「あなたは何歳から年金を受け取りたいですか？」と質問している様子を観ました。ある人は「元気なうちにお金を使つて楽しみたいので六十五歳から」と答え、別の人は「病気などでお金が必要になった時に少しでも多くもらいたいのので七十五歳まで引き上げる」と答えています。自分が何歳まで生きられるか分からないのに、それを選択するのは難しいものです。

聖書には、

「あなた(神)は人を塵(ちり)に返し、『人の子よ、帰れ』と仰せになります」(詩編90編3節)

と記されており、私たち人間が必ず死んで塵となる存在であること、そこには「もう帰って来なさい。あなたをよくやった」と呼ばれる神の声があることを知ることが出来ます。しかし、神の呼びかけがいつ自分にかかるかを知ることができません。どんなに若くて元気に見えても、ある日突然…ということには誰にでもありうることなのです。

救世軍では、二つの病院と、高齢者の介護施設、在宅介護に関わる事業所を運営しています。昨今の医療、

介護の現場では、アドバンス・ケア・プランニング(A&P)または「人生会議」という言葉が盛んに言われるようになり、老後の生活や、人生の最終段階における医療について、患者様を主体に家族や医療介護関係者と話し合いをすることの大切さが叫ばれています。患者様は自分で意思決定ができなかった時に備えて、どのような最期を迎えたいかを考え、意思表示するようにと促されるのです。

この話題に触れるとき、わたしはある患者様との会話をいつも思い出します。

その方は、将来娘たちの迷惑にならないようにと、自分の老後を考え、ご自分なりに備えておられたそうです。しかしある日突然、意識を失い、病室で目覚めたとき、想像もしていなかったようなたたくさんの管につながれ、全く身動きができません。それから数カ月経って救世軍の病院に転院され、チャプレンの訪問に対して、「こんなはずではなかったのに…」と涙を浮かべてお話しされたのです。

たとえ事前に意思表示をしていたとしても、そのとおりにできるとは限らない現実を見ます。究極的には



私たちは自分で死ぬ時を選ぶことができません、また、どのように死ぬのかを選ぶこともできません。死の前に人はまったく無力な存在なのです。

「生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることが出来ますように」(詩編90編12節)

と、この詩編の作者は祈り求めています。それには神の知恵が必要です。無力な自分を知り、誰かのお世話になることを受け入れることはどんなに忍耐が必要なことでしょうか。ですから、このような私たちの魂を見守り、そのときには、「人の子よ、帰れ」と温かく迎えてくださる神の存在をどうか知っていただきたいのです。神の御手にすべてをゆだねるとき、私たちは思いどおりにならない人生に落胆するのではなく、今の状況を受け止め、今日一日を感謝し、精一杯生きる人生へと導かれることでしょうか。

(救世軍士官(伝道者))

ほりきりとしお きくえ
堀切 利雄さん 喜久江さん

(救世軍上野小隊所属)

日本ではクリスマスチャンは人口のパーセント弱と
言われています。キリストに出会い、信仰をもつこ
とは、珍しいと思われるかもしれませんが。
堀切利雄さんと喜久江さんご夫妻に、どのように
キリストに出会ったのか、証言をお聞きしました。

それぞれの救世軍との出会い

上野小隊(教会にあたる)
では、山谷での街頭給食活
動をしていますね。

喜久江: はい、今は月一回
もう長年続いています。私
と夫はカレーの調理とお弁
当セット担当です。利用さ
れる方が、一口目でおいし
い、と感じて食べていただ
けるよう、少し濃い味付け
にしています。石川曹長の^{*1}
「コロナ禍にあっても給食

は続けよう、今こそ救世軍
がやる仕事だから」とい
う言葉に、皆心を合わせて
感染対策に気を配りながら
続けています。

上野小隊に来たきつかけ
はどのようなものでしたか。
利雄: 私は小二の時に父が
亡くなり、その後、上野小
隊に通っていた祖父に連れ
られて一緒に行くようにな

りました。その少し前には
日曜学校キャンプにも参加
していました。もともと救
世軍とのつながりはあった
家族で、高祖母は山室軍平
中将と一緒に上野の山で路
傍伝道をしていたといいま
す。でもそれは大人になっ
てから知ったことで、子ど
もの頃は単純に、日曜学校
が楽しかったのです。居心
地が良く、日曜日は一日中
小隊で過ごすという感じ
でした。その頃の隊長はご
自分の四人のお子さんと一
緒に、「うちの五番目の子
だ」と、温かく接してくだ
さいました。聖書の学びも
楽しく、次の隊長もすば
らしい説教者で、聖書のメ
ッセージが心に入ってきました。
自分の救いの確信という
のは、中学生になってから
はっきりしました。小二の
時、ブランコで遊んでいて
頭から落ち、顔に大ケガを
負ったことがあり、その時
祖父が毎日毎日祈ってくれ
ました。その祖父の祈りが
私の救いにつながっている
んだ、と中学生の頃に思っ
たのです。祈られ、守られ
て、自然な感覚として、イ
エス様の救いを受け入れて
きました。だから妻と一緒
になる時はけっこう、ぶつ
かりました(笑)。

喜: そうなんです。私は全
くキリスト教を知らず、教
会に行ったこともありません
でした。私の家は神道の
信仰で、神様を敬う思いが
家庭に根付いており、物心
ついたときから、父母が神
棚に毎朝ろうそくを立てる
姿を見てきました。でも母
は、どの宗教が良い悪いな
どは一切言いませんでした。
彼と交際中に、クリスマス
スだから教会と一緒に行こ
う、と誘われて初めて上野
小隊に行った時、看板に
黒々とした文字で「救世軍
上野小隊」と書かれている
のを見て、私は「軍」、「小
隊」という言葉に強い違和
感を抱きました。父が戦
争に行った世代だったこと
もあり、非常に驚いたんで
す。「普通の教会じゃない
の?!」と彼に言う、「う
ん、普通の教会だよ」と。
「教会」と書いていないこ
とについて聞くと「ああ、
うちはそういうスタイルだ
から」。ちょっと納得い
かない、怖いな、と思って
しまいました。それで私は
本屋さんに駆け込み、キリ
スト教についての本を何冊
も買い、キリスト教とは何
か、救世軍とは何かを必死
で調べました。教理や歴史
、教派のこと、「救世軍」が
どこにどう出てくるかと探

しながら読み、調べて、救
世軍がちゃんとした教会だ
ということにはわかりまし
けれど、信仰の面では、三
位一体というものがなかな
かわからなかったもので、い
ろいろな教会に行つてメッ
セージを聞いたら納得でき
るのではと思います。求道とい
う形で、いろいろな教団、
教派の教会の礼拝や学び会
に出席しました。五年間ほ
どそれを続けました。

会つてお礼を言おうと思っ
て行ったのです。
小隊の皆さんはとても喜
んで、本当に温かく迎えて
くださいました。そして二
階の礼拝堂へ階段を上がっ
ていく彼の背中を見ていた
時、突然、頭に声が響いて
「この人を教会から離して
はいけない!」と聞こえた
のです。私は驚いて立ち尽
くしてしまいました。「何
だ、今のは」と思いながら
その日は礼拝に出て、帰っ
て来た時に、ずっと忘れて
いた、母の言葉を思い出し
ました。昔から母は、「あ
なたが将来結婚したら、パ
ートナーとなる人と同じ信
仰をもつのが一番幸せなこ
となのよ」と言ってくれて
いたのです。ああ、そう言
われていたな、いろいろ考
えすぎていたかな、とそこ
で思いました。導かれるま
ま、抵抗しない方がいいの
かと思ひ、その次の週にもう
一度行ってみました。様子
を見るような感じで(笑)。
年が明けてから定期的に
通うようになり、小隊にも
慣れてきていました。そし
て二〇〇五年のイースター
の時、小隊長から、突然、
「兵士になりませんか」と
言われ、とっさに「はい、
わかりました」と答えてい
ました。覚悟が決まったと

それは貴重な学びの時間
だったことでしょうか。
喜: たくさんのメッセージ
を聞き、多くの牧師さんに
も会い、理解も深まりまし
た。とても勉強になりました
が、その間、彼は上野小
隊からは離れることになっ
てしまい、私のなかで、な
んだか彼に悪いな、という
気持ちもありました。当時
の小隊長は、度々わが家を
訪ねてくださっていました。
留守でお会いできないこと
が続いたので、一度ご挨拶
だけはと、二〇〇四年の十
一月に上野小隊に行くこと
にしました。私は小隊に通
おうという気があったので
はなく、ただ小隊長さんに

覚悟が決まったと

*1 曹長 = 信徒リーダー *2 小隊長 = 牧師にあたる *3 兵士 = 救世軍の信徒



1



2



3

① 結婚式での誓約の時
② ワーシップバンド「フロントライン」。2021年の上野小隊70周年記念集会での賛美。
③ 街頭給食の調理の奉仕

えられて、希望や慰めを与えられています。

喜・私たちが思ってもい

いきたいと思います。

と同世代で、「上野を日本

を出し合い、ワーシップバ

の日からカフェ当日は、目

れました。また「すべての

大きなプロジェクトを無

だと思っています。

小隊での活動 明かりを灯し続ける

という感じで、これで良いんだ、という思いが沸き上がってきた。そして二〇〇五年八月の救世軍全国大会の席上で、ジョン・ライソン大将の司式で入隊式を挙げていただきました。

喜・私は小学五年生のとき、母が与えてくれたマザー・テレサの偉人伝を読ん

ンドを結成したり、カフェチャーチに挑戦し始めました。バンドは以前から願っ

今、お二人とも救世軍ブ

利・私は小二の時のキャ

戒め、誤りを正し、義に導

神様に持ち運ばれて

今、お二人とも救世軍ブ

利・私は小二の時のキャ

*4 大将 = 全世界の救世軍の最高指導者 *5 入隊式 = 正式に救世軍の信徒になる儀式

創立者 ウイリアム・ブース

大将

ブライアン・ペドル(万国本営)

英国 ロンドン

日本司令官

ステイブ・モーリス

救世軍本営

東京都千代田区



世界をみつめて

〈ヨーロッパ、日本〉

●ウクライナの危機に際しての支援活動 続報

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まって以来、救世軍は他の団体とも協働して、この危機で大きな影響を受けた人々への支援を続けています。ウクライナの救世軍は国内避難民の人々に物資の支援とともに、精神的、霊的なサポートをおこない続けています。国外への避難民は540万人を超え(4月29日時点)、難民の人々への支援は隣接国のみならずヨーロッパ各国へと広がっています。故郷を離れての避難生活は子どもや青年たちにも大きな影響を与えています。ポーランドの首都ワルシャワの救世軍では、ウクライナから逃れてきた十代の青年たちの居場所となるよう、レクリエーションの集まりなどをおこなっています。↗



日本の救世軍は、リトアニアに避難しているウクライナ難民のために、ロンドンの万国本営(国際本部)を通じて200万円の支援を実施しました。

リトアニアの首都ビルニュスと港湾都市クライペダの救世軍の拠点において、食品引換券、学用品、衛生用品、寝具等の提供支援を3月中旬から開始しており、今年7月まで継続する予定です。(支援の最新情報、ご寄付については救世軍ホームページをご覧ください。)



- ①ウクライナのドニプロの救世軍。空襲警報が鳴る中でも聖書の言葉を聞き、困難の中にある人々への奉仕を続けている。
- ②リトアニア:クライペダの救世軍での物資支援。
- ③フランス:フードバンクや人道支援団体からの寄付、物資の提供を受け、支援をおこなっている。
- ④ルーマニア:首都ブカレストの大型展示施設「ロムエキスポ」に設けられたウクライナ難民支援センターでの支援。食糧、衣類の提供に1,000人以上の人々が訪れる日もある。

〈英国〉

●生活費上昇の中での支援活動

英国では今年初頭から、食品代や燃料価格の上昇、増税などで、人々の生活への負担が大きくなっています。スコットランドのルイス島の救世軍では、フードバンクの利用者がこれまでにないほど増え、一日に150人にのぼることもあります。プレストンの小隊では利用者は増える一方、寄贈品が減少していることが課題となっています。救世軍は生活に困窮する人々のニーズに^{こた}え、食品、日用品の提供とともに精神的な支援を続けています。



英国・プレストンで

救世軍とは？

What is The Salvation Army?

救世軍は、世界132の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウイリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは1895(明治28)年に始まり、小隊(教会にあたる)での伝道と、^{はいしやう}廃娼運動、失業者対策、病院や結核療養所の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて様々な働きを興してきました。現在、救世軍ブース記念病院(東京・杉並区)と救世軍清瀬病院(東京・清瀬市)は、両病院ともキリストの愛の精神を模範とし、病める方々とご家族に寄り添うことを理念に掲げ、医療と介護の働きに取り組んでいます。詳しくは両病院ホームページをご参照ください。

【お知らせ】第6回救世軍社会鍋俳句コンテストの受賞結果は『ときのかえ』6月1日号掲載予定でしたが、7月1日号掲載に変更いたします。ご了承ください。なお、救世軍ホームページには受賞結果を6月1日に掲載いたします。

【お詫びと訂正】『ときのかえ』5月1日号4ページ ロシアでの救世軍の活動開始年に誤りがありました。誤→1901年 正→1910年

救世軍創立157年記念コンサート&士官候補生夏期訓練任命集会(オンライン)

6月12日(日)

第6回救世軍社会鍋俳句コンテスト
受賞作発表もあります

救世軍YouTubeにて配信 <https://bit.ly/SAArmyTube>

救世軍公報 ときのかえ
発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日(除く7月)
定 価 福音版/1部40円、広報版/1部100円
(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円
振 替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 ステイブ・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881(代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのかえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。